ゲスト講師による課題提起

この時間について

ゲストの方が、皆様に対して地域の課題を相談されます。
その課題の解決のために、ここまで学んだことを活かして
解決策を提示するのが、今後の皆さんのミッションです。

課題解決の基本プロセスを思い出しながら、主体性を持ち
ゲストの方の抱えている問題・課題を理解するように努めましょう。

課題解決の実践①②

課題理解と解決策立案

課題解決の実践

課題解決の基本プロセスにそって、グループで協力して解決策の選択までを目指しましょう！

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践③④⑤

提案内容の準備

課題解決の実践

実行と評価の代わりに解決策をリアルなものにする準備をします。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

解決策の実行の代わりに、実行に役立つ制作物を準備しましょう。

例

ある観光地の新しいターゲットを呼び込むためのキャンペーンを考えた

①そのキャンペーンのためのポスターを作成

②キャンペーンとポスターを売り込むためのプレゼン資料

※解決策をただの空想ではなく、リアルなものにするものなら何でもOK

課題解決の実践⑥⑦

提案内容の準備

課題解決の実践

実行と評価の代わりに解決策を発表しましょう。

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

課題解決の実践

解決策の実行の代わりに、内容が伝わるようにプレゼン資料を作りましょう。

最低限入れるべきもの

- 解決策の概要（何をするのか）
- その理由（なぜ、それを選んだのか）
- 詳細な方法（どのように実行するのか）
- ターゲット・受益者（それによって誰が助かるのか）
- 実行に役立つ制作物の紹介

課題提供者への発表

課題解決結果の発表

他のグループに発表し、自分たちのアイデアを伝えましょう

他のグループにむけて

自分たちの課題解決の成果を報告しましょう！

聞いているグループは、以下を考えましょう。

①疑問点・質問したいこと

②解決策をもっとよくするためのアドバイス

他のグループの発表からも
新たな視点を得ましょう！

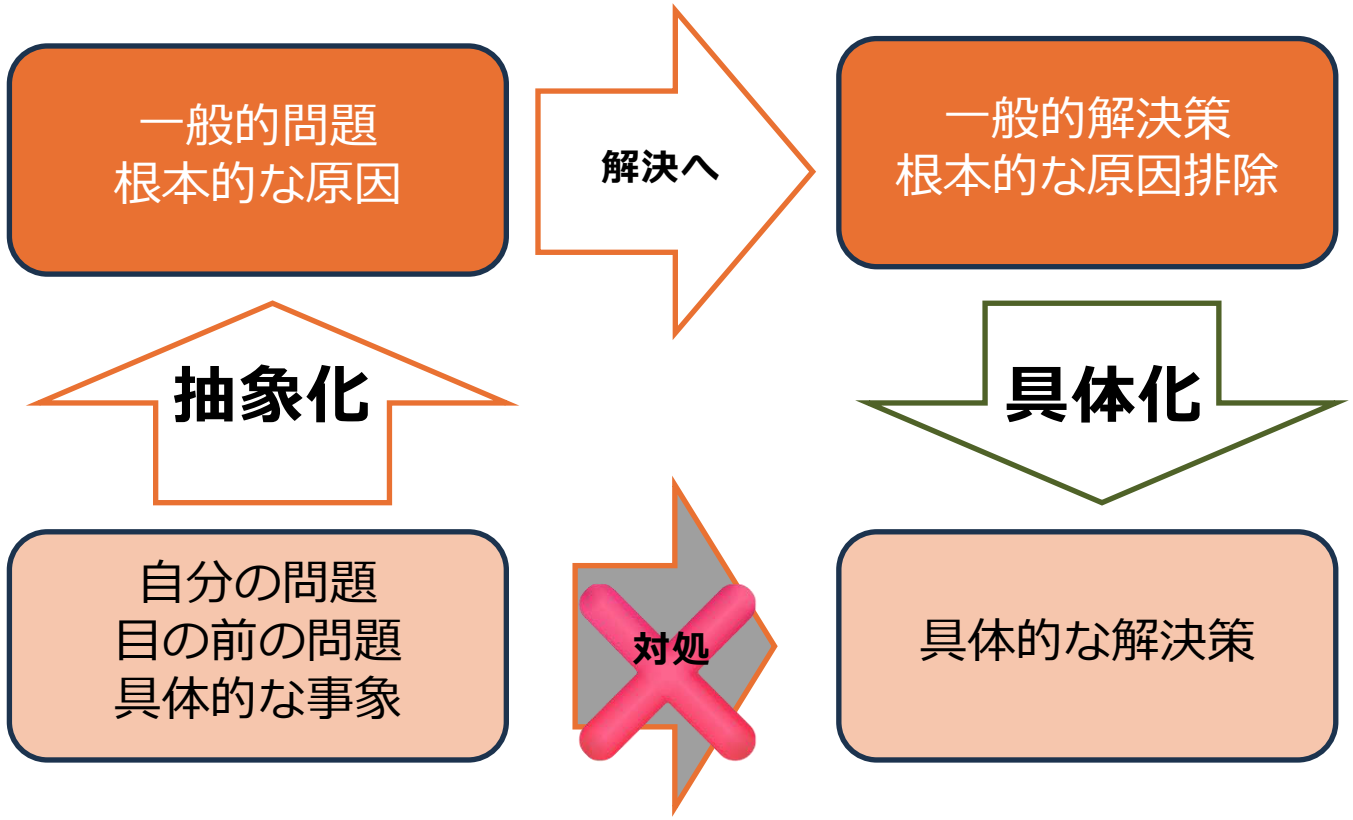


課題解決の基本プロセス①

課題解決の定義～問題の洗い出し

問題への”対処”と”解決”

目前の問題だけへの対処から、抽象化し視座を上げての課題解決へ



課題と問題

課題解決＝理想と現実のギャップを解消すること

問題＝現状の困りごと　→ 部屋が暗い

理想＝あるべき状態　→ 物が見える

原因＝問題を起こしている理由　→ 電球切れ

課題＝問題を解決する具体的行動方針　→ 新しい電球

解決策＝どうやって取り組むか

→ 買ってくる？借りてくる？もらう？

課題解決の基本プロセス

問題の発見	現状どのような問題があるか洗い出す
問題の選択	どの問題から取り組むかを選ぶ
問題の理解	現状や理想を整理し、その問題について理解する
課題設定	範囲や抽象度なども明確にし、課題を定義する
解決策の立案	解決策の可能性を探る（拡散思考）
解決策の選択	どの解決策を採用するかを選ぶ（収束思考）
実行と評価	実際に解決策を試し、有用性を確認する

今回のテーマについて

グループで1つの「課題解決チーム」となります。

このテーマの授業が終わるまで1つの問題に取り組みます。

本日のテーマ

この地域の課題（困りごと・不足や不満を感じることから考える）

①どのような問題があるか洗い出していきます。

②その問題を分析し理解して、課題を設定します。

③その課題を解決する方法を考えます。

ブレインストーミング

アイデアを出すための最も一般的な方法です。

ブレストのルール

①質より量（思いついたら、どんどん書く）

②議論しない・否定しない（ダメなアイデアなんてない）

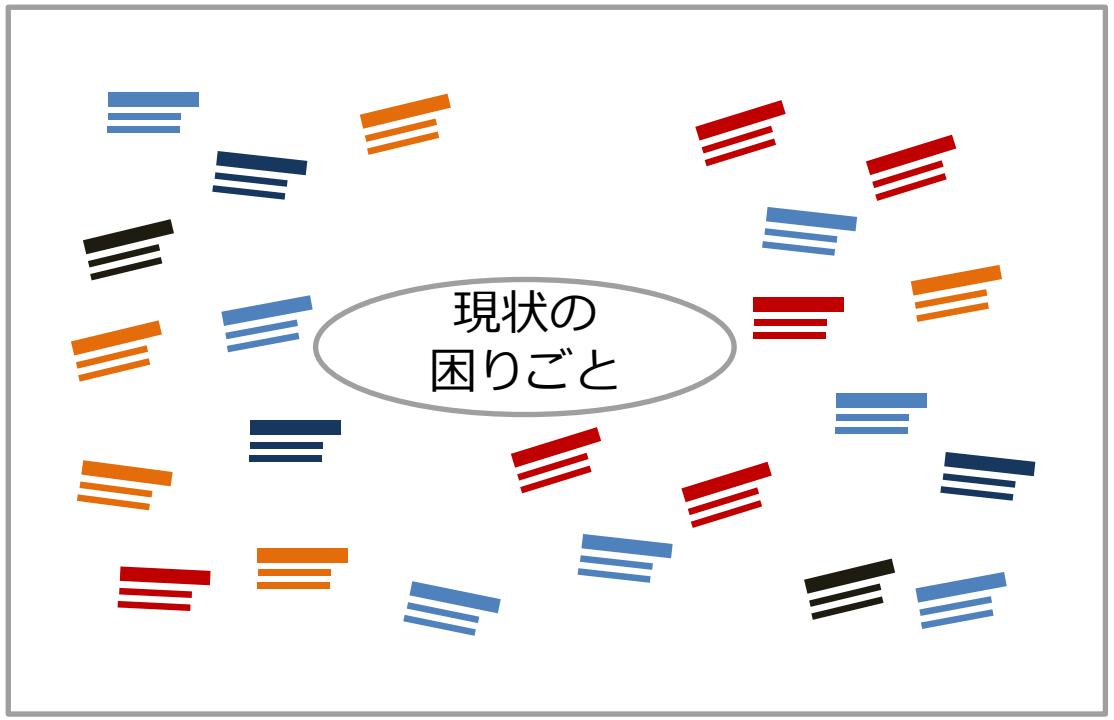
③書いたら言う・言ったら書く（全員ペンを持つ）

④便乗大歓迎（他の人のアイデアを活かす）



問題の洗い出し

ブレインストーミングをつかって
現状「困りごと」と感じるものを出してください。
不満・不足と感じるものであれば、何でもOKです。





課題解決の基本プロセス②

問題の選択～課題設定

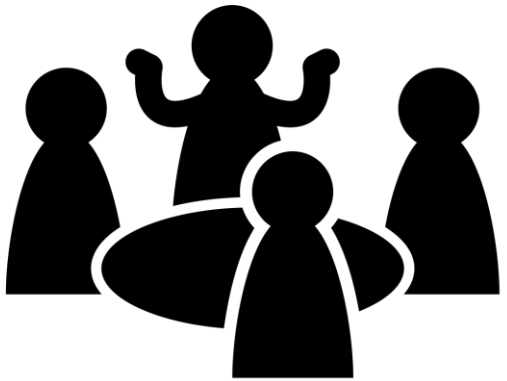
問題の選択

ブレインストーミングで出した問題のうち
どれについて考えるかを決めていきます（全体で1つに絞ります）。

まずは、グループで以下の視点ごとに2票ずつ（合計6票／人）
投票してみましょう。

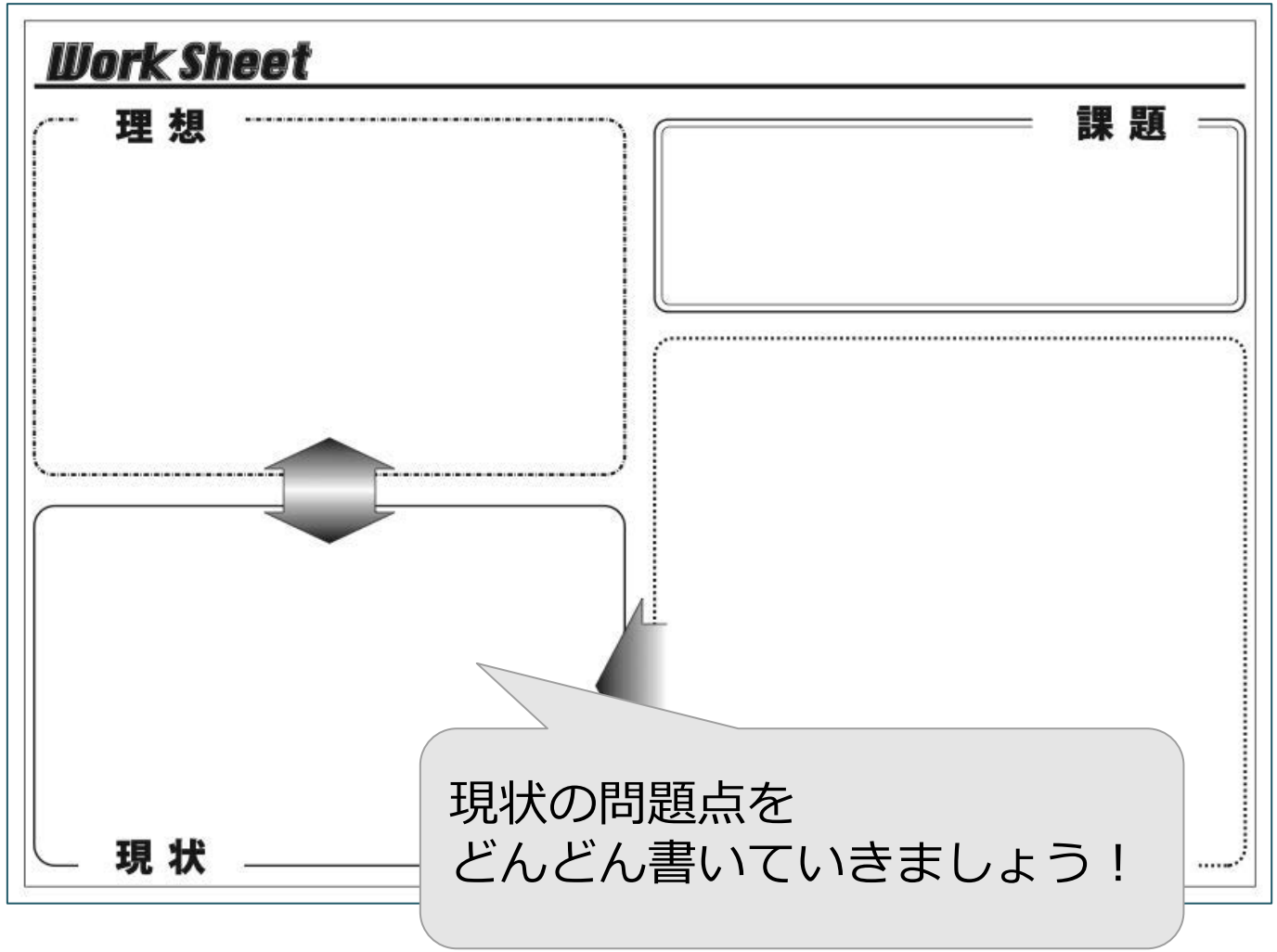
意義が大きいと思う　⇨ ○
解決できる見込みが高そう　⇨ ＃
興味がある　⇨ ☆

※記号はグループ内で統一されていれば何でもOKです。



問題の理解と課題設定

選んだ問題を整理して、課題設定していきます。

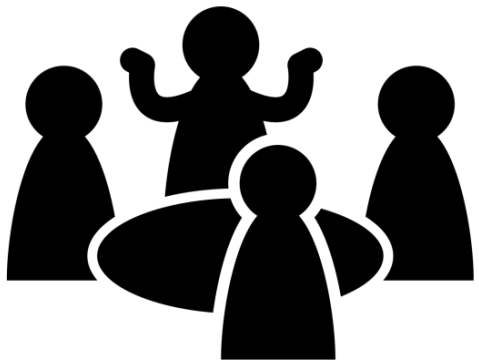


まとまっていなくて大丈夫

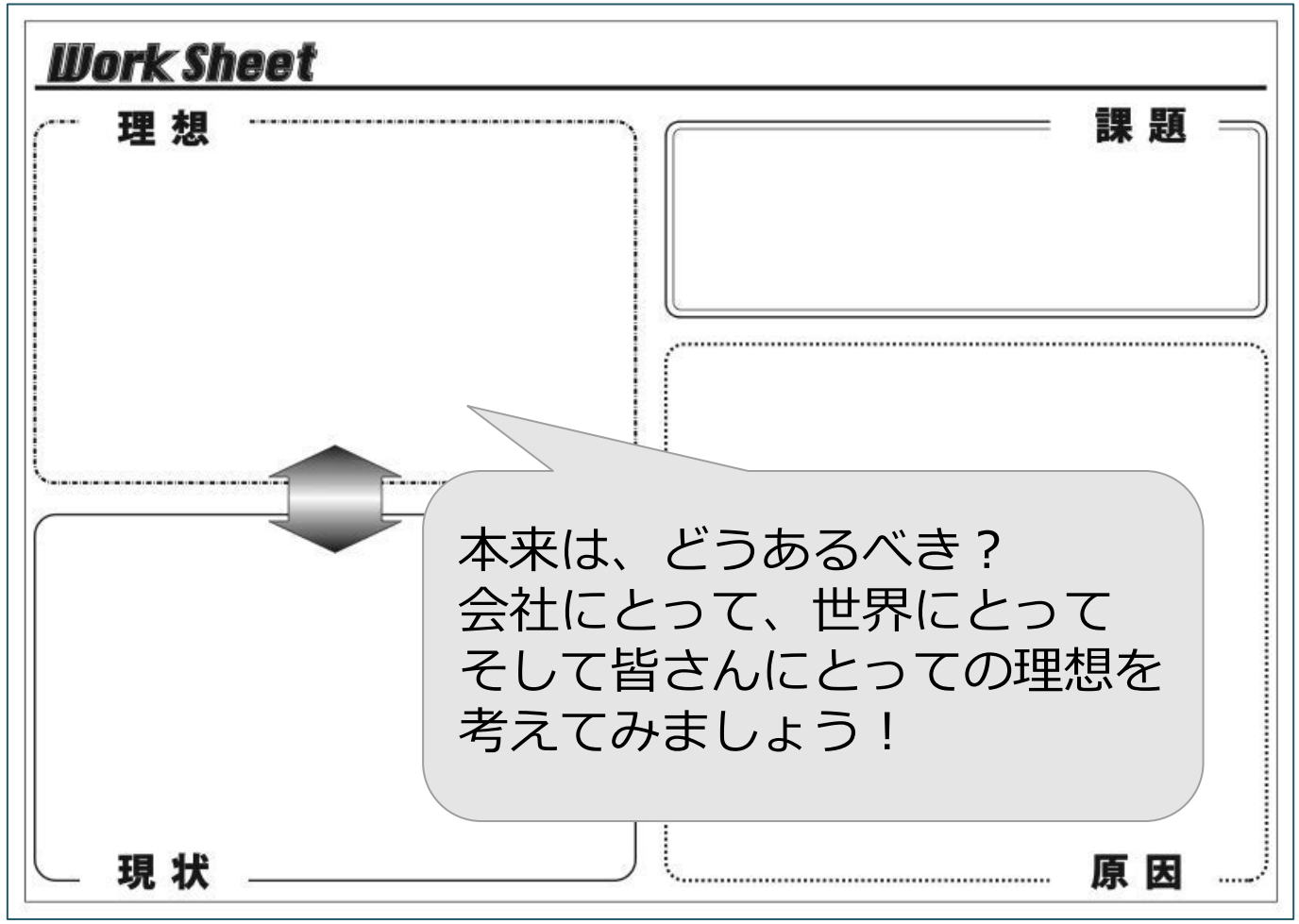
結論は必要なし

誰かの個人的な意見もOK

話しているうちに
思いついたことも書きましょう！



問題の理解と課題設定



まとまっていなくて大丈夫

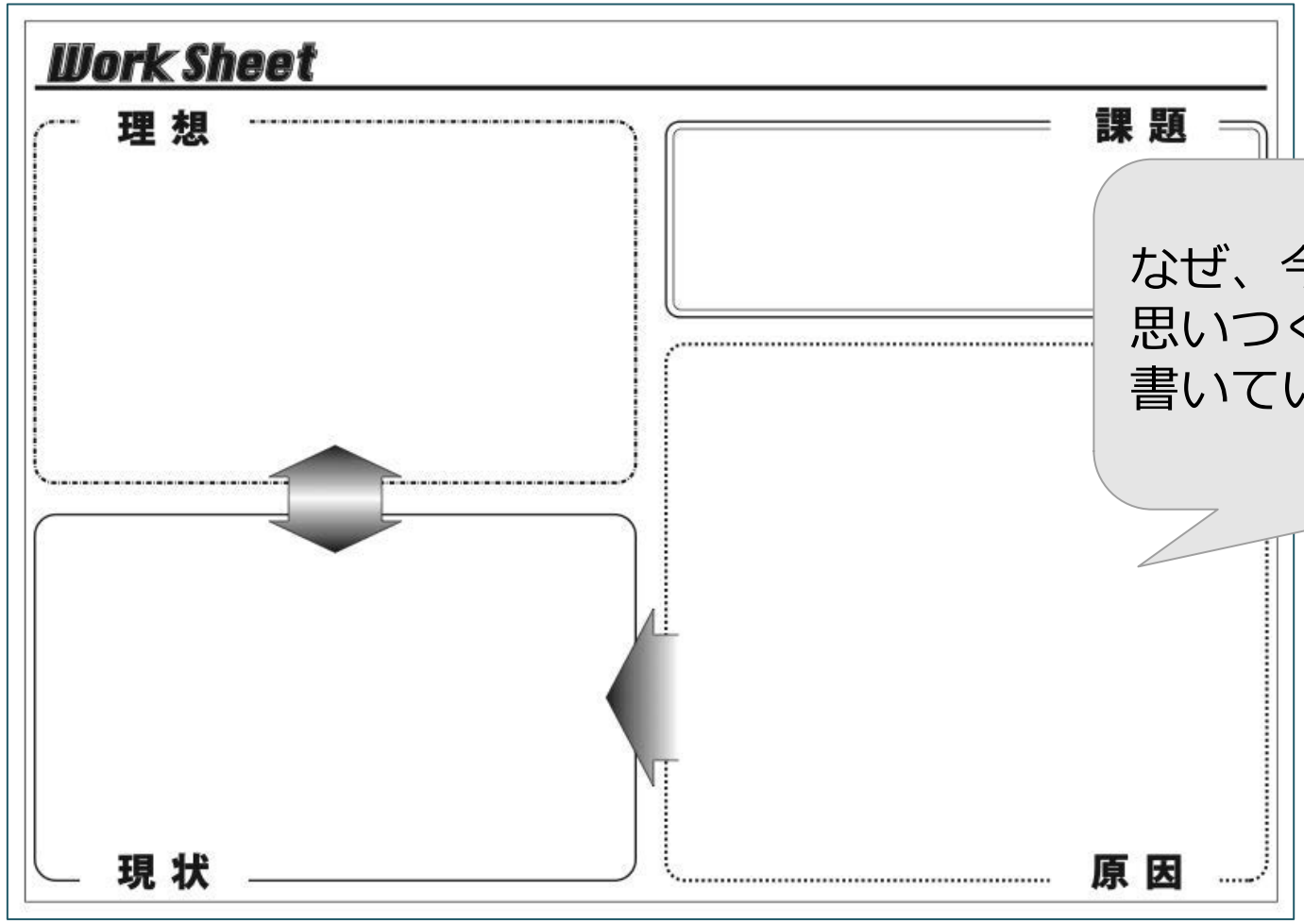
結論は必要なし

誰かの個人的な意見もOK

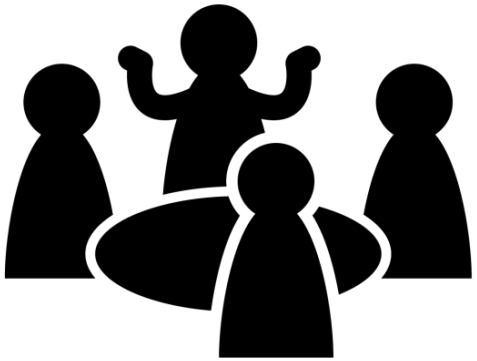
話しているうちに
思いついたことも書きましょう！



問題の理解と課題設定



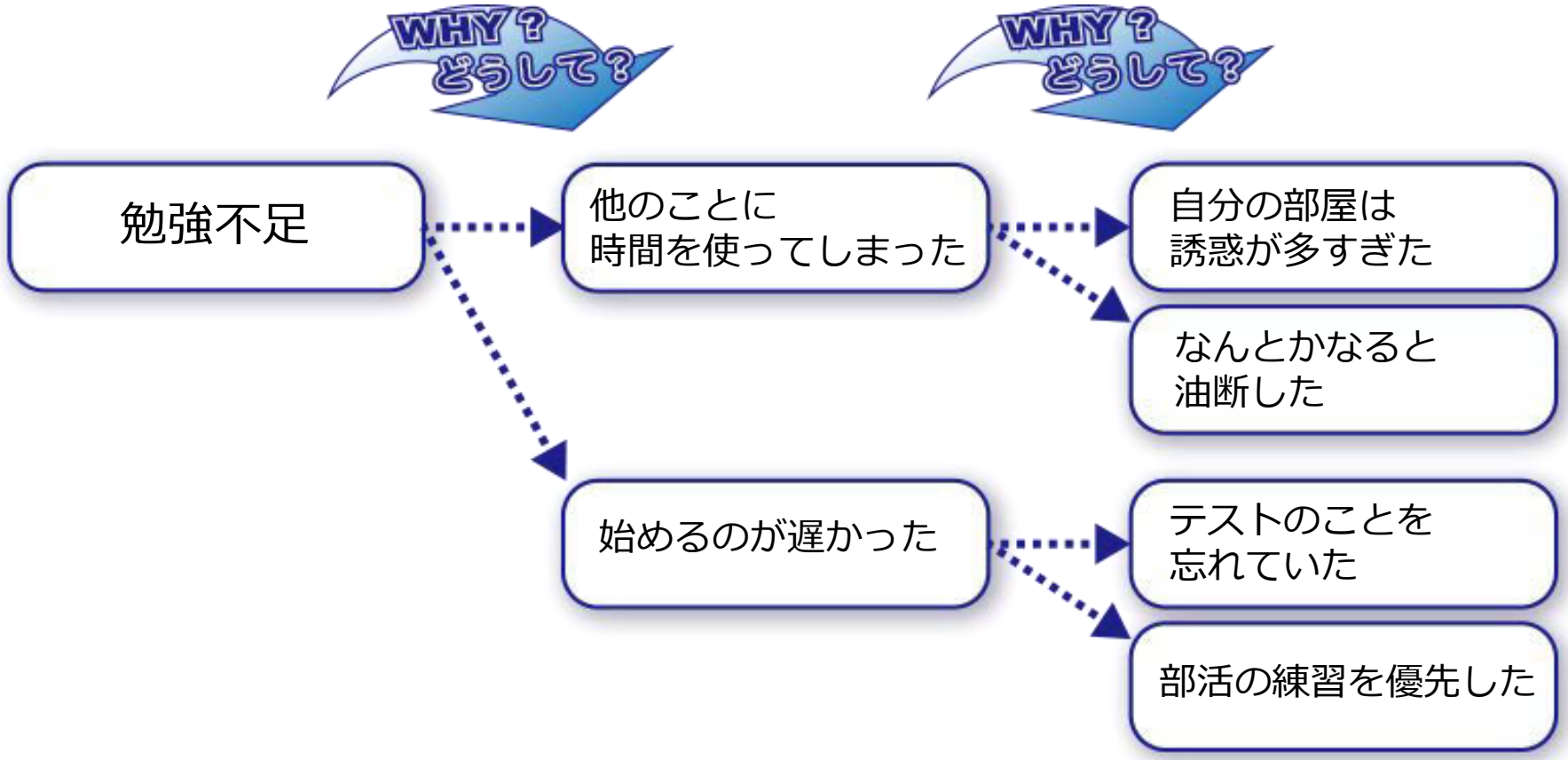
なぜ、今の現状なんだろう？
思いつく限りの原因を
書いていきましょう！



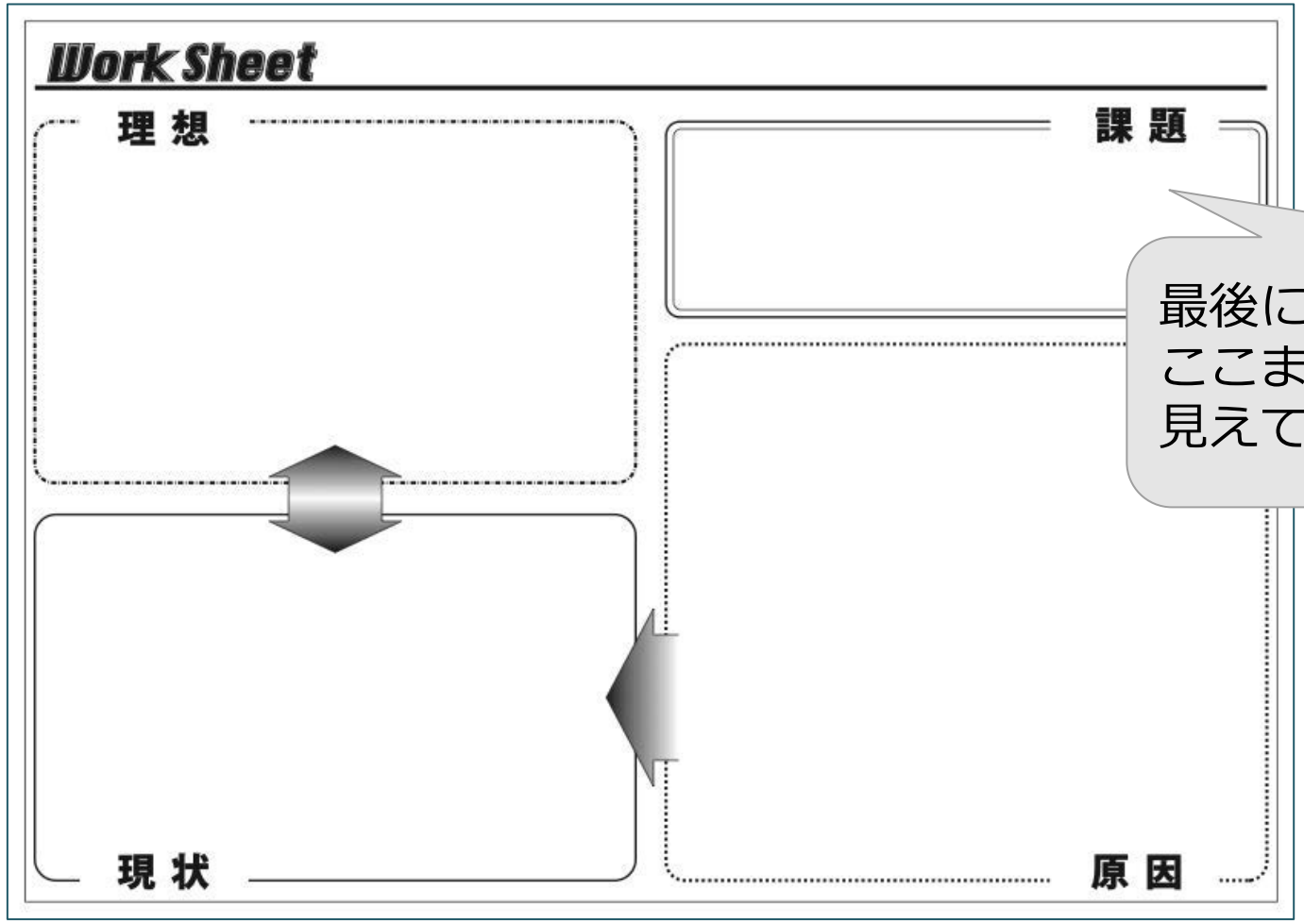
【補足】原因の原因

余裕があるグループは、原因のさらに原因も考えてみましょう！

例えば、「テストの点が悪かったのは、勉強不足だから」では終わらずに…



問題の理解と課題設定



最後に
ここまで考えたことで
見えて来た課題を書きましょう



課題＝問題を解消する具体的行動方針

サブ課題への分解

設定した課題への理解を深めます。
その課題全体をいくつかの部分（サブ課題）に分けてみましょう。

メイン課題とサブ課題

メイン：車椅子の人が旅行を楽しむ方法

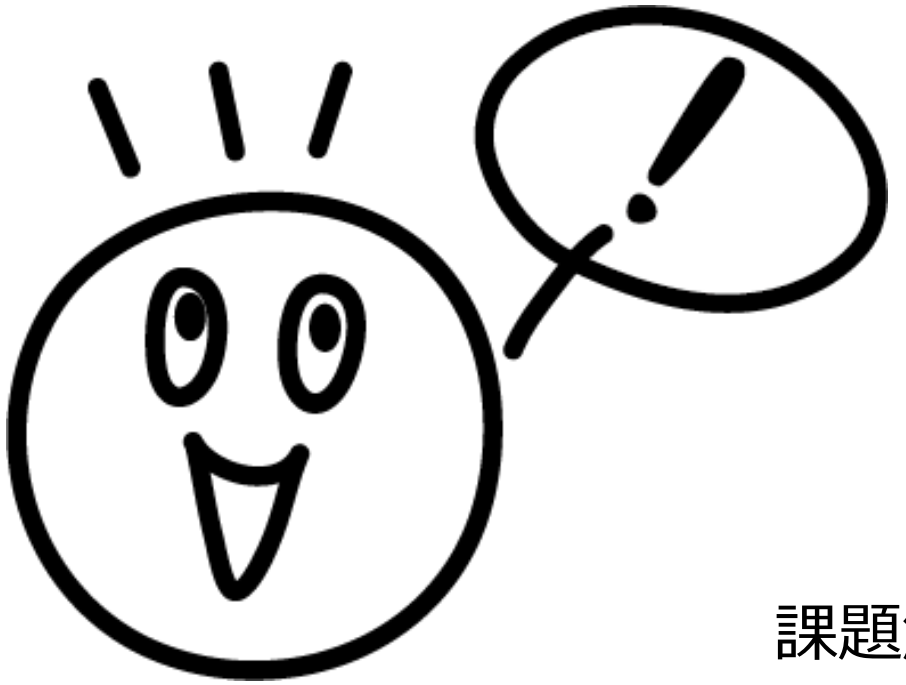
サブ：車椅子の人が電車でスムーズに乗り降りするには？
：車椅子の人がホテルのベッドを快適に使うには？
：慣れないお風呂をうまく使うには？
：フロントのカウンターでの手続きをスムーズに行うには？
：ホテルのレストランでも快適に移動するには？



課題解決の基本プロセス③

解決策の立案～プロトタイプ作成

可能性の検討（拡散思考）



課題解決のためには良いアイデアが必要です。

良いアイデアを出すために誰でも出来ること

それは、アイデアをたくさん出すことです！

ブレインストーミング

アイデアを出すための最も一般的な方法です。

ブレストのルール

①質より量（思いついたら、どんどん書く）

②議論しない・否定しない（ダメなアイデアなんてない）

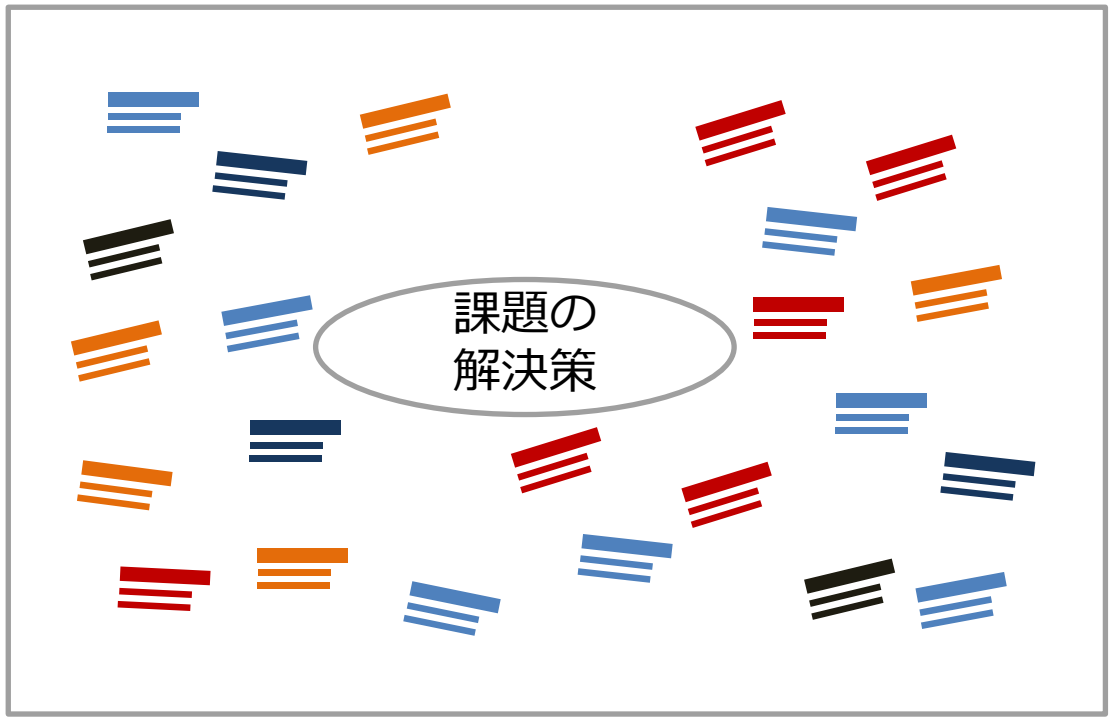
③書いたら言う・言ったら書く（全員ペンを持つ）

④便乗大歓迎（他の人のアイデアを活かす）



解決策のアイデア出し

ブレインストーミングをつかって
設定した課題を解決する方法を考えていきましょう。





アイデアの評価（収束思考）

アイデアを出すだけでは、解決にはなりません。

解決のためには、実行が必要です。

実行するためには（無限の時間と資源がない限りは）

「どのアイデアを実行するか」を選ばないとなりません。

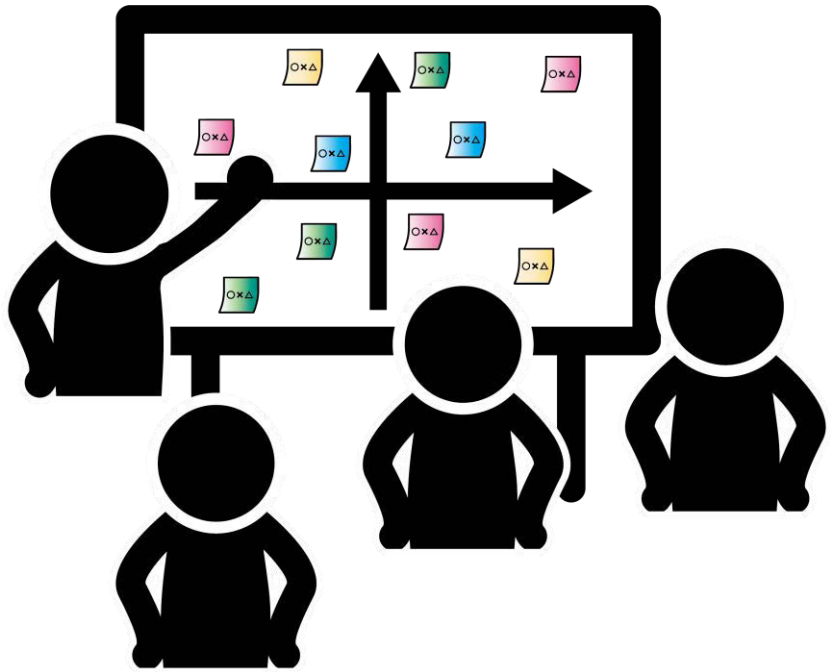


ペイオフマトリクス

軸を2つ設定してアイデアなどを絞っていく方法です。

以下の視点ごとに2票ずつ（合計6票／人）を投票していきます。

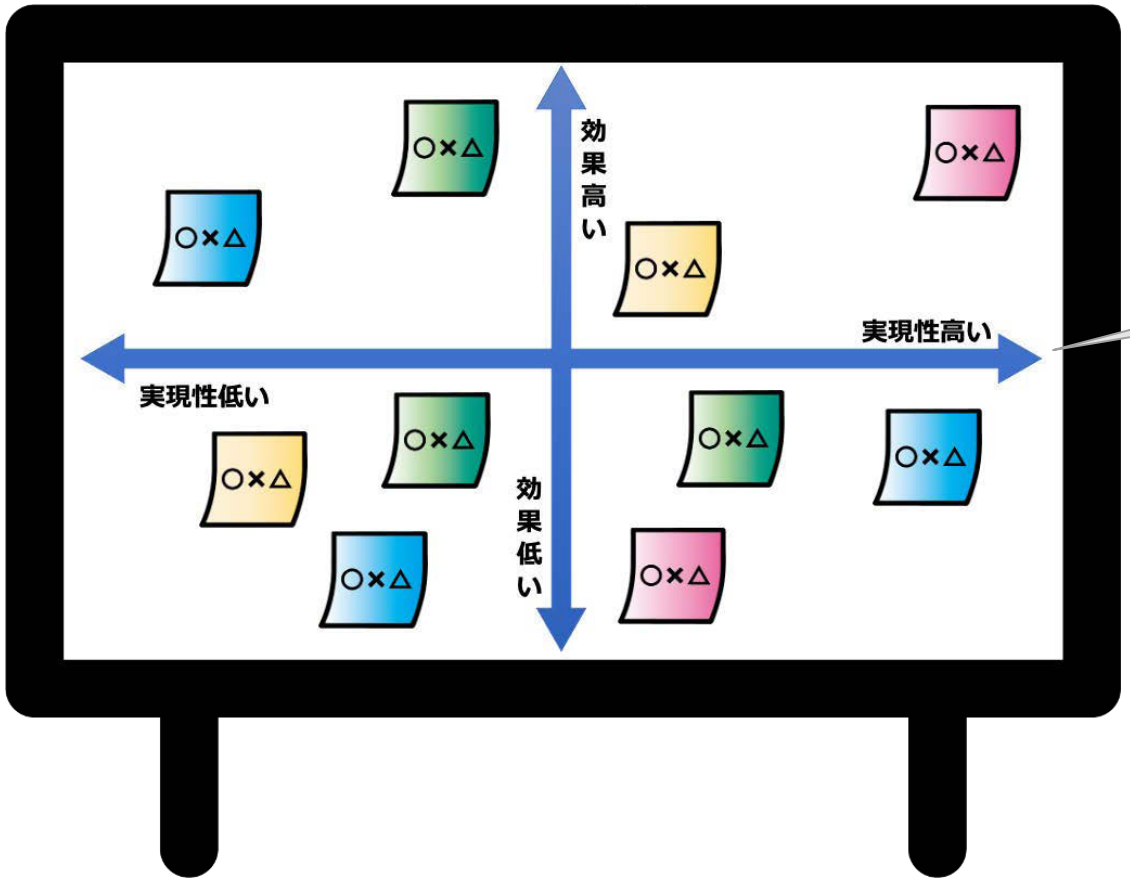
実効性（出来たとしたら効果が高い）　⇨ ○
実現性（できる可能性が高い）　⇨ ＃
好きだ・やりたい　⇨ ☆



※記号はグループ内で統一されていれば何でもOKです

ペイオフマトリクス

投票結果をもとにマトリクスに配置していきましょう！

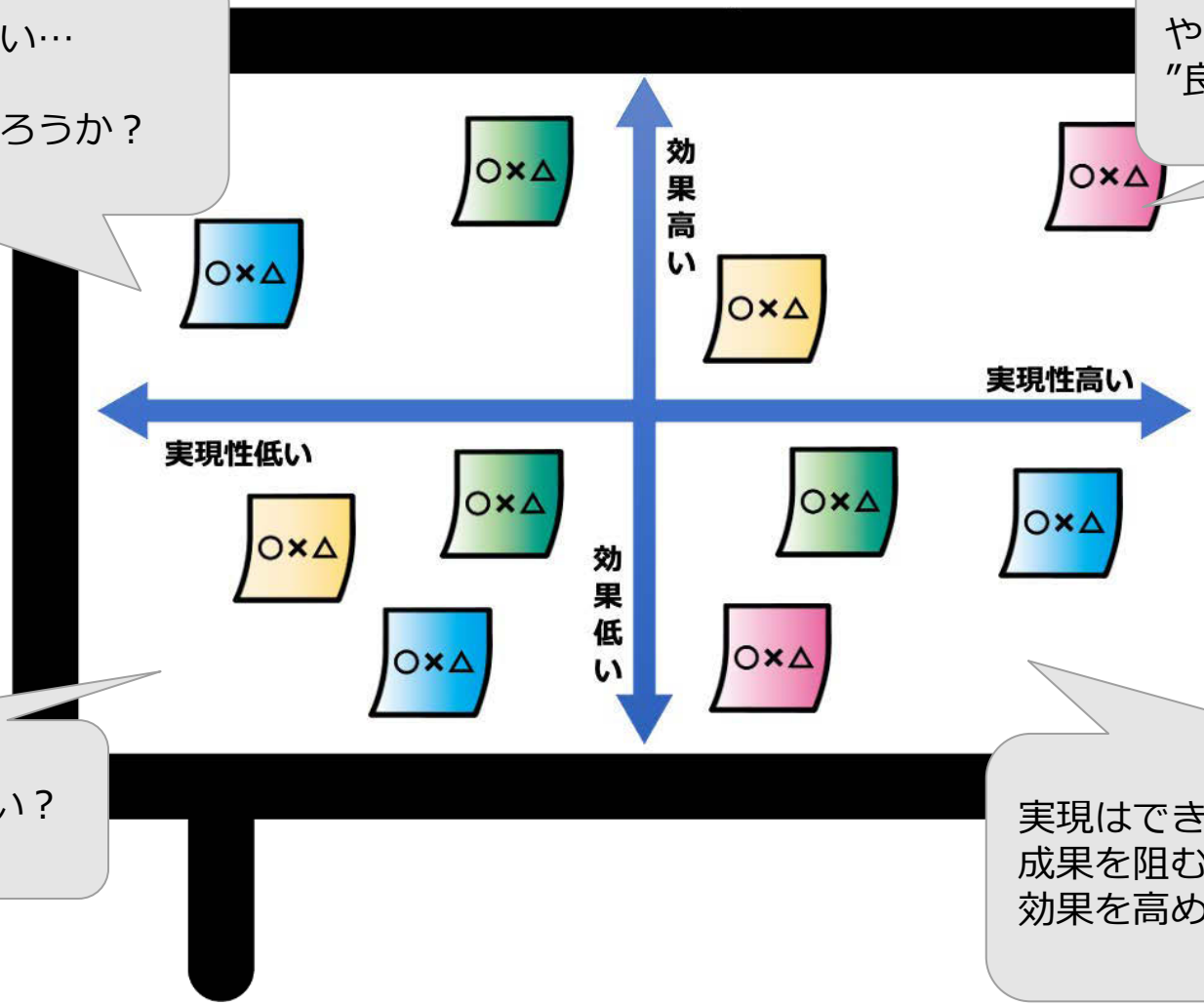


完全に1つに絞れなくて良い
この段階では
「アイデアを評価し整理できた」
ということが大切

配置後に考えること

効果は高いけど、実現が難しい…
細かいステップに分けるなど
実現性を上げる方法はあるだろうか？

やる価値があって、実現可能な
”良いアイデア”がありそうな領域



本当に捨ててしまってもよい？

実現はできそうだが、効果は低い
成果を阻むものを排除するなど
効果を高める方法は、あるだろうか？

プロトタイプを考える

アイデアを頭の中から、現実世界に引き出す

アイデア・企画を他人（チーム以外の人）に紹介し
フィードバックをもらうためにプロトタイプ（試作品）が有効

自分たちの考えていることの価値を確かめ
向かうべき方向を知るために早い段階で行うことが重要

フィードバック
　目標達成に向けたアクションに対する指摘や評価
　軌道修正や改善の参考として活用するもの（非難ではない）

プロトタイプを考える

安く、素早く、たくさん失敗するの手法

アイデアを実行に移す前に、有効性を確かめましょう。

最初から、完成品を目指す必要はありません。

素早く、安くて簡単な試作品（プロトタイプ）を作りましょう。

早く失敗すれば、早く改善できます。
たくさん失敗すれば、たくさん改善できます。

それが、プロトタイプの持つ大きな価値です。

プロトタイプを考える

アイデアを自分以外の誰かにも
イメージしてもらえるなら方法は何でもOK

下記も立派なプロトタイプです。

①紙とペンと糊で工作する

②PCを持ってきて、プログラミングする

③3Dプリンターを使って作る

④紙にデザインを描く

⑤芝居・劇で表現するための台本を書く



プロトタイプを考える

皆さんが考えてきたことについて

「最低限ここまでやったら、プロトタイプだ！」
を考えてみてください。

とるべき視点は

なるべく簡単に、素早く、安く
実際の社会からの声を得るには、どうしたら良いか？
特に改善点の指摘を得るには、どうしたら良いか？

全体共有

他のグループへ、ここまで考えたことを発表してください。

他のグループ、および講師から質問をします。

最後に講師から、アドバイスをします。

他のグループの発見から
新しい視点を見つけてください。

